

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	文化・スポーツ振興課
会議名 (審議会等名)	令和7年度 第5回文化振興審議会		
開催日時	令和8年2月9日(月) 13:30~15:30		
開催場所	塩田公民館 視聴覚室		
会議の公開の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	杉谷委員(会長)、古賀委員(副)高島委員、井上委員、東島委員、秋吉委員、筒井委員、一ノ瀬委員	
	事務局	文化・スポーツ振興課長、副課長、主事 各1名	
	その他	【受託業者】 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 トータルアドバイザー、まちづくりプランナー 各1名	
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期嬉野市文化振興計画素案 ・ 嬉野市文化振興に関するアンケート調査報告書 ・ 委嘱期間の延長について ・ 文化に関するトピックス募集について 		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	文化・スポーツ振興
議 題	嬉野市文化振興計画について		
内 容	第2期嬉野市文化振興計画（案）について		
審議経過	事務局	<p>パブリックコメントについて、計画案は現在8～9割の完成度である。本会議後、市のホームページ等でパブリックコメントを実施し、市民の意見を集約した上で最終版に取りまとめる予定である。</p> <p>計画書を市民にとって親しみやすく、かつ「嬉野らしさ」が伝わるものにするため、各委員に400文字程度のコラム執筆をお願いしたい。</p> <p>日常業務で把握できる数字を指標（KPI）として導入する予定である。例として、「嬉野元気通信」での発信件数、市のホームページや広報誌への掲載数、文化関連HPの閲覧数等を取り上げたい。</p> <p>全ての数字を右肩上がりを目指すのではなく、伝統芸能のように「衰退させない（現状維持）」ことも立派な目標として、明確な数値を示すだけでなく、矢印等の掲載も予定している。</p>	
	委員	人口減少等の構造条件を踏まえ、無理な増加目標はせず、横ばいでも十分なのでは。	
	事務局	人口減少も鑑みて目標を作るようにする。	
	委員	伝統芸能（面浮立、笛など）の維持・継承について、笛の吹き手が不足しており、80代の指導者と20代の学習者のように年齢差が大きく、習得の難しさから離脱者も多い。また、神事の公演化に対する地域内の価値観が異なることもある。	

委員	<p>子供に「継承しなさい」と強いるのではなく、「パパたちがかっこいい」「大人が楽しそうにやっている」姿を見せることが、子供たちが地域に戻り、文化を継承する最大の動機になるのではないかと。</p>
委員	<p>様々な物事において、若手に譲るといいますが、実際にはそうになっていないのではないかと。若者にやる気があっても未熟という理由で新旧交代ができない。</p>
委員	<p>自分の所属団体では「2年に1回は必ず団長を交代する」というルールを決めて、若手に責任ある立場を経験させることで、組織の硬直化を防ぎ、持続可能性を高めるようにしている。</p>
委員	<p>各コミュニティ単位で地域の文化的資源や伝統行事の現状を把握し、途絶えそうなものや維持できているものを整理する取り組みの重要となるのではないかと。市役所が全てを抱え込むのではなく、地域コミュニティを活用した効率的な文化振興が必要となる。</p>
委員	<p>市役所内に、文化・学校・地域をつなぐ「コーディネート機能」を充実させるべきである。何かを始めたい市民や、指導者を探している学校が相談できる窓口が必要。</p>
委員	<p>現在は子どもたちのみの参加となっているが、地域コミュニティとの連携により大人も参加できる仕組みづくりをしなければならない。</p>
委員	<p>嬉野市全体がコミュニティスクールとなっており、地域と学校の連携が進んでいる。文化活動においても、この仕組みを活用することで学校と地域の文化団体の連携が促進される可能性もあるのではないかと。</p>
委員	<p>一方で、法規制の影響で、地域が新入生の名簿を把握できなくなり、伝統行事への勧誘が困難になっている実態もある。</p>
委員	<p>計画書に記載されている「市民や団体が行うこと」について、実際の実施が困難。特に楽器の貸し出しや体験プログラムの実施において、高額な楽器の破損リスクや安全管理の問題など、現実的な課題が多数ある。補助金をもらえとしても、新品の楽器や備品の購入が認められない場合がある。また、数十万円する楽器（琴、和太鼓、管楽器など）のメンテナンス費用に対する支援が不足している。補助金の条件と実際の活動ニーズとの乖離について改善の必要なのではないかと。</p>

	委員	両地区の文化連盟は成り立ちが異なり、各々文化祭を開催しているが、塩田は「交流会」的、嬉野は「発表会」的な側面が強い。性急な組織合併は避け、まずは「友情出演」などの形で緩やかな交流から始めるべきである。
内容	文化振興審議委員の委嘱期間延長について	
審議経過	事務局	策定した計画の進捗を責任を持って見守るため、当初1年間としていた任期を、令和9年3月31日までの2年間に延長したい。
	委員	了承。
その他		